

## J-DESC 第15回マントル掘削WG会合 議事メモ

【日時】 令和5年2月24日（金）13:00-14:00 オンライン会合

【参加者】（敬称略）：阿部、石橋、稲垣、海野（WG長）、秋澤、片山、柵山、草野、島、針金、富士原、道林、森下、山下、山田、末廣（アドバイザー）、斎藤、監物、木戸、江橋（J-DESC事務局）

【欠席者】（敬称略）：小野、黒田、鈴木

### 1. 第14回会合の議事メモ案の承認及びHP掲載について

- 第14回会合の議事メモ案及びそのHP掲載について承認された。

### 2. ECORD-Japan WSなどを含む国際プログラムの動向について

- 2023年1月19, 21, 26日の3日間にわたりECORD-Japan WSがオンライン開催され、180名以上の事前登録と3日間平均で140名程度の参加があった。ハードロック掘削関連では、森下委員、道林委員をはじめとする日本人参加者により主体的に議論が進められた。（事務局）
  - 欧州では、科学掘削提案において「ちきゅう」を活用しようとする意識が十分に醸成されていない。大水深におけるライザーレス・ハードロック掘削など、「ちきゅう」の強みを活かした掘削提案は考えられるところ。日本から積極的な国際共同提案の創発を働きかけていく必要がある。
  - Deep Earthのキーノート講演では、とにかくポジティブに、前向きなロードマップを示すことを意識した。（道林委員）
- ANZICのコミュニティは、ハードロック掘削に対して強い関心を持っている。日豪の国際チームによる今後の掘削提案の進展が期待される。
- 2023年秋～冬期にかけて、Phase 2のECORD-Japan WSを対面・ハイブリッドで開催する計画について、今後、Steering Committeeを中心に検討される予定。J-DESC理事会では、Phase 2 WSの前に国内ワークショップを開催して議論を深めてはどうか、という検討が始まっている（事務局）
- IODP Forumは4月のEGUに合わせてウィーンで開催予定。秋には豪州で開催するという議論もある。（事務局）
- 米国の動向はまだ見えていない状況であるが、1月のSEPの議事録にNSFが米国の海洋科学掘削に関するDecadal Surveyを計画しているとの記載がある。
  - 国際に開かれた意見収集の場合には、本WGや個人レベルでも積極的にインプットしていく。
- 2024年夏までのIODPのExpeditionスケジュールが紹介された。

### 3. CIB からのレターに対する対応について

- 2024 年以降の IODP のプログラムへの移行に伴い、現行の Active プロポーザルに対して CIB からレターが発出された。2022 年末に、805-MDP と 951-Full についてリードプロポーネントから最新動向を踏まえたレターを返信済み。
  - 上記より、次期プログラムにおいても Active な掘削プロポーザルとして継続審議される見込み。

### 4. 日本学術会議「未来の学術振興構想」に向けた「学術の中長期研究戦略」について

- 昨年より議論していた「地球表層システム変動の解明に向けた地殻～マントルのフロンティア科学の実践」をまとめ、2023 年 12 月 15 日に、金沢大学の和田隆志学長名で日本学術会議「未来の学術振興構想」に提案した。今後、日本学術会議内で審議され、グランドビジョンの策定に活用される予定。執筆にあたっては、末廣アドバイザーにもアドバイスをいただいた。
- 当該構想は格調高く文書化されており、生命科学系出身である和田学長にご説明した際にも大変高い関心を持って受け入れられた。(森下委員)
- 本学術振興構想に係る文書を引用できる形で残すことが重要である。学協会誌の邦文解説として公表できるよう、オーサーシップも含め、海野 WG 長を中心に投稿準備を進める。
  - 本 WG メンバーの個人名も記載されるよう配慮し、ドラフト回覧にて WG としての賛同を得た上で投稿する。

### 5. ハワイ沖・コスタリカ沖 M2M 掘削候補地点のサイトサーベイについて

- 2022 年 12 月～2023 年 1 月末にかけ、サウサンプトン大学のデーモン・ティーグル教授らにより、コスタリカ沖サイト 1256 からココスプレートのベンディングを含む海域でサイトサーベイが実施された。
- フランスにおいても、M2M 掘削候補地点の一つであるメキシコ沖のサイトサーベイの立案の動きがある。
- ハワイ沖については、2025 年の白鳳丸ハワイ沖調査に合わせ、地下構造探査にフォーカスした形での 1 週間程度の追加実施提案が考えられる。その実施後に期待される掘削計画のインパクトを示すことが必要。次期 3 カ年計画提案と合わせて、周到に準備を進めていく必要がある。
  - 本年度内にも、M2M 関連のサイトサーベイに関するワークショップを開催するニーズが出てくる可能性が高い。秋～冬にかけての国際会議や海洋科学掘削が関連する会合の動向と合わせ、本 WG も積極的に議論に参加していく。

## 6. その他

- 日本地球惑星連合大会 (JpGU) 2023 年度大会は、前年度比 500 件以上の講演要旨の投稿があり、コロナ前の状況に戻りつつある。積極的な参加をお願いしたい。(末廣アドバイザー)
- JpGU の国際化に向け、従来の AGU/EGU/AOGS との共催セッションのみならず、マレーシア・フィリピン・インドネシアの 3 カ国における 8 学会との共催セッションが組めるようになった。本 WG から、積極的な共催セッション提案をしてほしい。(末廣アドバイザー)
- AGU-JpGU Taira Prize の募集が開始されている。締め切りは 4 月 12 日。日本からの積極的な若手・中堅研究者のノミネーションをお願いしたい。
- 4 月以降に行われる JR 航海からの中継イベントや JpGU 会場のブース設営など、J-DESC 事務局と共同しながら、WG として積極的に広報活動に貢献していく。
- 第 15 回セミナーは、2 月 28 日に実施予定。WG メンバーには、関係者への情報展開をお願いしたい。
- 次回の WG 会合は、5 月の JpGU 総会前までに実施予定。

以上。

//